

観光業

業況、売上、採算

今期（2023.1～3）の業況判断DIは66.6で、前年同期（2022.1～3）と比べ108.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

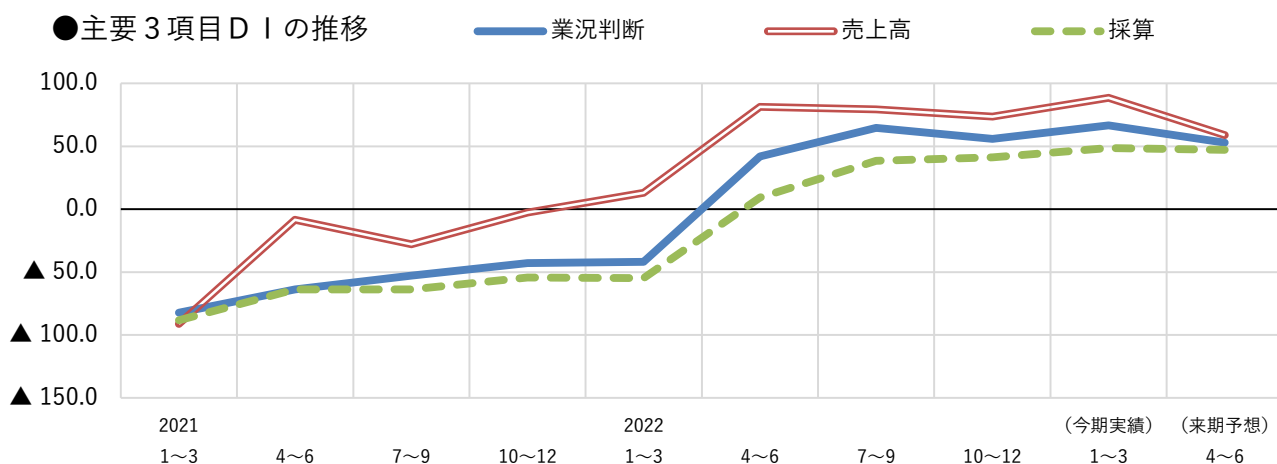
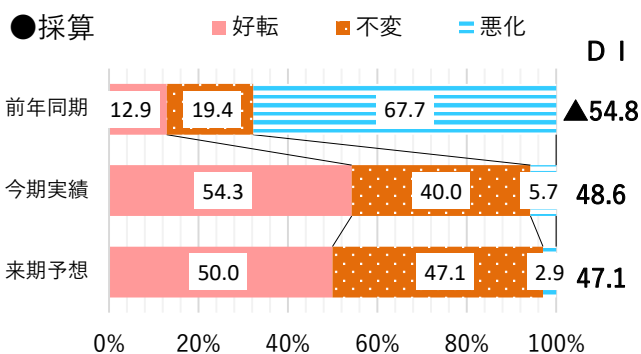
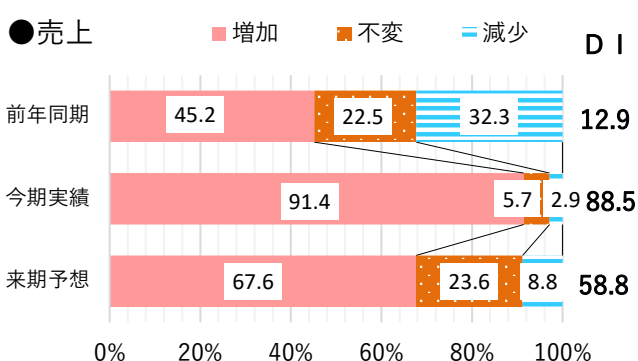
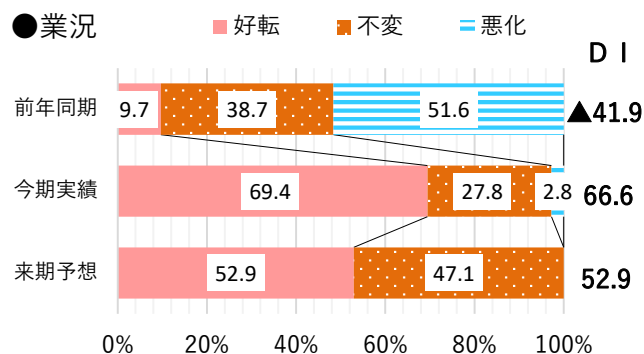
来期（2023.4～6）は、業況の好転傾向が続くと予想しています。

今期の売上DIは88.5で、前年同期と比べ75.6ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

今期の採算DIは48.6で、前年同期と比べ103.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

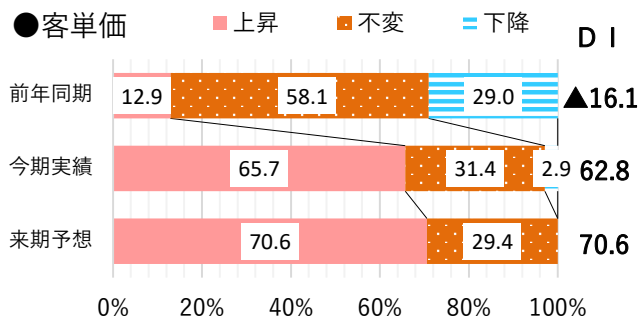
来期は、採算の好転傾向が続くと予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

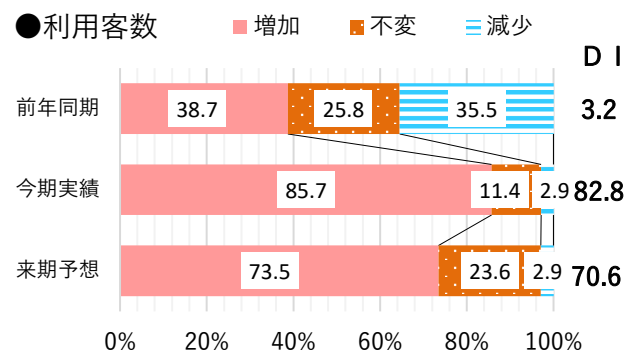
今期の客単価DIは62.8で、前年同期と比べ78.9ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価の上昇傾向が続くと予想しています。



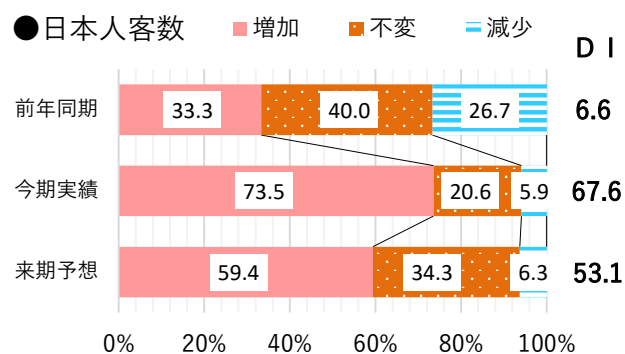
今期の利用客数DIは82.8で、前年同期と比べ79.6ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、利用客数の増加傾向が続くと予想しています。



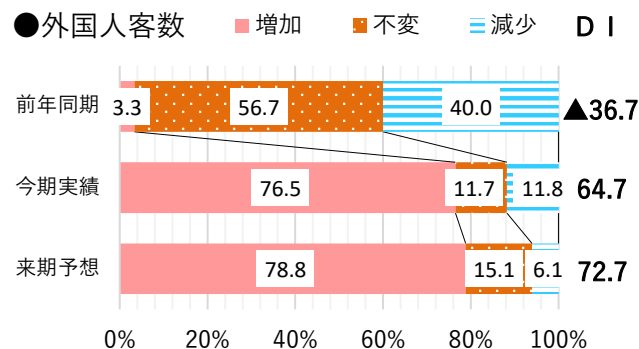
今期の日本人客数DIは67.6で、前年同期と比べ61.0ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、日本人客数の増加傾向が続くと予想しています。



今期の外国人客数DIは64.7で、前年同期と比べ101.4ポイントと大幅に上昇しプラスに転じました。

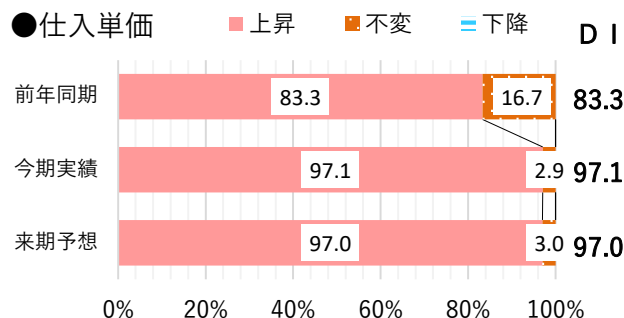
来期は、外国人客数の増加傾向が続くと予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは97.1で、前年同期と比べ13.8ポイント上昇しました。

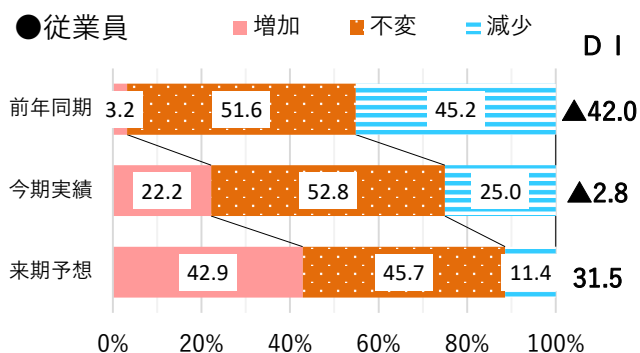
来期は、仕入単価のほぼ横ばいを予想しています。



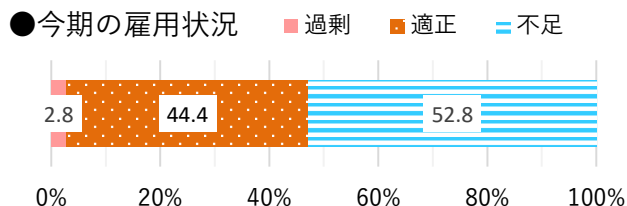
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲2.8で、前年同期と比べ39.2ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、従業員数が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は2.8%、適正であると回答した企業の割合は44.4%、不足していると回答した企業の割合は52.8%でした。



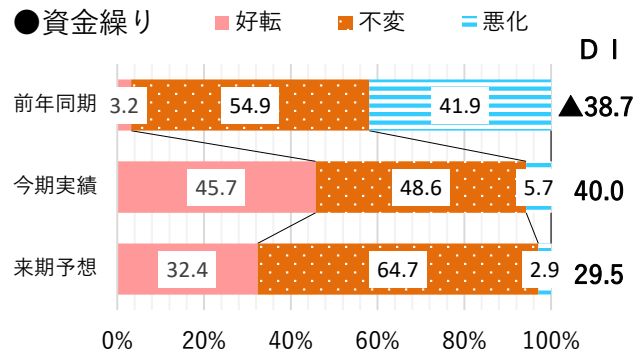
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、33.3%を占めました。回答全体では52.7%が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	4
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	12
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	9

資金繰り、設備投資

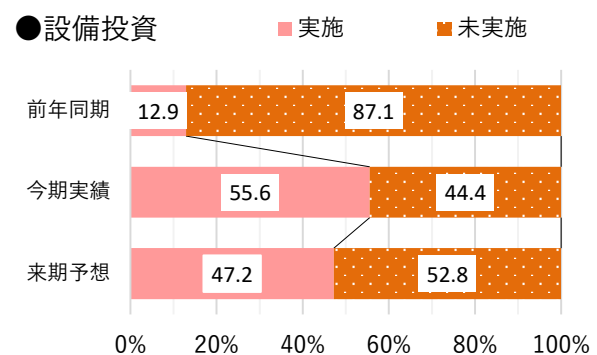
今期の資金繰りDIは40.0で、前年同期と比べ78.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は55.6%で、前年同期と比べて42.7%増加しました。投資内容は、1位が「建物」、

「付帯施設」(同位) 2位が「サービス設備」、「OA機器」(同位)の順です。来期に設備投資を計画している企業の割合は47.2%で、減少を予想しています。

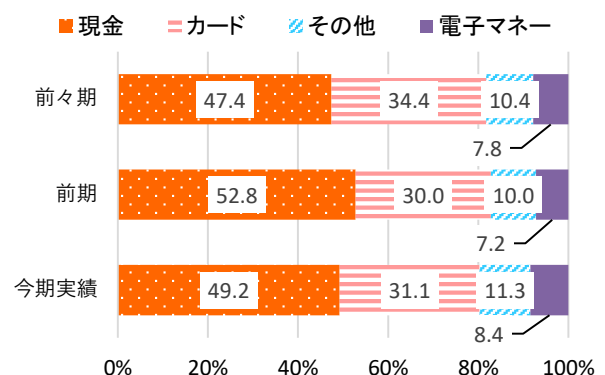


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で49.2%、2位がカードで31.1%、3位がその他で11.3%、4位が電子マネーで8.4%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、銀行振り込み、掛け売り、クーポン券、OTA(Online Travel Agent: オンライン旅行会社)による決済です。

●今期利用客の決済方法(%)

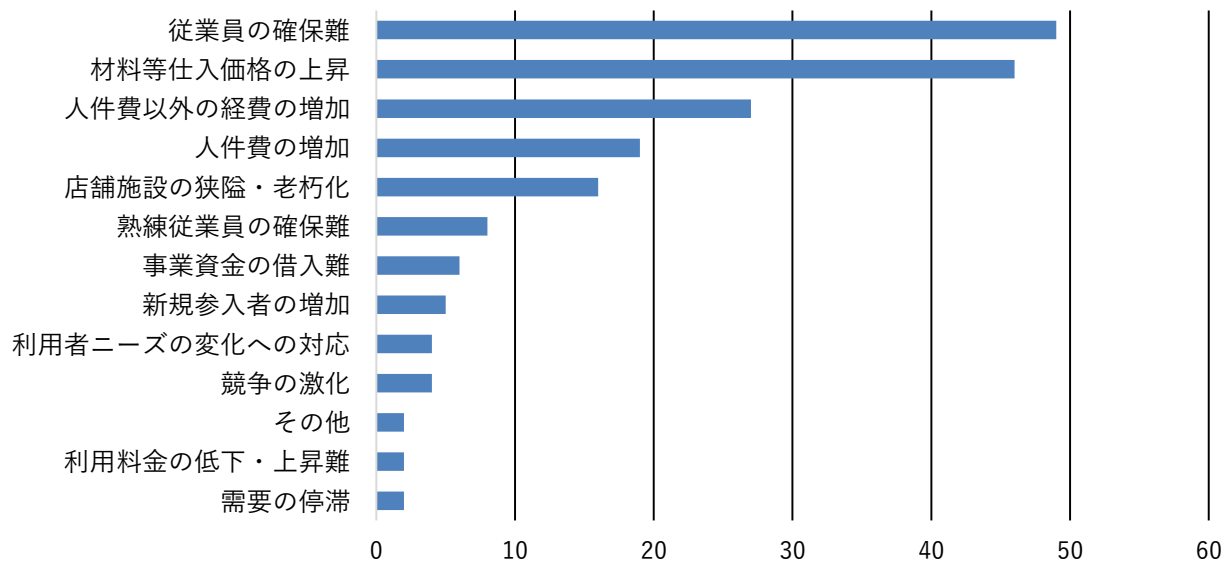


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は63.5%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- どうみん割、全国旅行支援により客数が増加した。10月以降インバウンド需要が回復しており、売上は好転した。原材料価格の高騰により仕入価格が増加した。最低賃金の上昇に合わせ、求人の時給を引き上げた。通年で従業員を募集しているが応募はまばらで、人材不足の1年だった。(ホテル)
- インバウンドが増加した。韓国、台湾、タイ、北米の順に多く、北米の増加は新しい傾向だ。(ホテル)
- インバウンドの回復が見込みより早く、感染症予防策の緩和もあり、業況が好転した。(ホテル)
- インバウンドはもともと少なかったが、中国人観光客の早期回復を望む。(ホテル)
- インバウンドの増加とMICEの増加により好転した。(ホテル)
- インバウンドが増加し、業況が好転した。(コテージ・ペンション)
- 今までにない程売上が増加した。客数が少なかった15～17時台に外国人が来店し満席になり、夜も19時頃には満席になる。例年客数が少ない1月の売上も良く、過去にないことが起きている。(飲食店)
- 売上、客数は増加しているが、仕入価格の上昇が続いており、原価を圧迫している。今以上の商品価格の引き上げは厳しい。(飲食店)
- 雪あかりの路の手宮線会場がなくなった分、人々が運河会場に集中し、売上が増加した。(飲食店)
- 令和4年9月以降、東南アジア系の来客が増加している。(飲食店)
- 店舗の規模に見合った業績を残せていると思う。(飲食店)
- インバウンドの回復で売上が増加した。(飲食店)
- とまっ得おたるクーポンにより、売上増加につながった。仕入価格の増加分は小売価格に反映している。人材確保は厳しい状況だ。最低賃金は昨年引き上げた。(土産品)
- 観光客(国内、国外)が増えた分、コロナ禍前の業績に近づきつつある。(土産品)
- インバウンドの増加とほっかいどう応援クーポンにより業況が好転した。(土産品)
- コロナ禍が落ち着き、ビジネスが動き出したことで業況が好転した。(土産品)
- さっぽろ雪まつりの期間に、中国人を除く外国人観光客が増加した。(土産品)
- インバウンドが増加した。人材不足が課題だ。(土産品)
- インバウンドの利用が増加した。(レンタカー)

- 乗客数、売上額ともに前年同期比で5割程度増加した。(水運業)
- 昨年同期はまん延防止等重点措置のため駐車場の閉鎖が多かったが、今期は通常通り営業でき、売上が増加した。(船舶貸渡業)
- インバウンドがコロナ禍前に迫る勢いで回復したため、1～2月の集客は好調だった。(社会教育)
- 燃料費等の管理コスト全般が上昇した。(娯楽業)

[来期の業況について]

- 客数は増加すると思うが、会社全体として大きな変動はないと思われる。原材料価格の高騰により、仕入価格は上昇すると思われる。引き続き求人がかかる予定だが、従業員の充足は見込めない。(ホテル)
- 東アジアのインバウンドとMICEの増加により、コロナ禍前の水準まで業況の回復を見込む。(ホテル)
- 客室を改装し、3月から高単価客室を販売するため、売上の増加を見込む。(ホテル)
- 感染症予防策のさらなる緩和により、観光客の増加を見込む。(ホテル)
- 悪化する要素が見当たらないため、好転を予想する。(ホテル)
- 休業期間があるため、売上の減少を見込む。(コテージ・ペンション)
- 大きな変化はないと思うが、仕入単価が落ち着かず、今後も最低賃金が増加するならば厳しい状況が続くと思われる。(飲食店)
- 人手不足のため、時短営業せざるを得ない可能性がある。(飲食店)
- 今期に退職者がいたため、人材確保に取り組む。(飲食店)
- 中国人客が増加すれば状況が好転すると思われる。(飲食店)
- インバウンドが増えると思われる。(飲食店)
- 支援金等がなくとも、売上や来客は増加すると思われる。他は状況に応じて対応したい。(土産品)
- コロナ禍等による観光業への規制等がなければ、業況は少しずつ改善すると思われる。(土産品)
- コロナ禍終息を見据えて進めてきた準備が、実を結ぶ一年になると思われる。(土産品)
- 新型コロナウイルスの5類移行に伴い、観光需要の増加を見込む。(土産品)
- インバウンドの増加が続き、さらなる好転を見込む。(土産品)
- 今期に引き続き、人材不足が課題となる。(土産品)
- 観光客の利用に期待する。(レンタカー)
- 乗客数、売上額ともに今期以上の増加が見込まれる。(水運業)
- コロナ禍の影響が落ち着き、観光客が増加すると思われる。(船舶貸渡業)
- 3月に大規模集客施設が開業するため、今後は一定程度の集客減が予想される。(社会教育)
- 売上はほぼ不変だと思うが、管理コストは大幅に上昇する見通しだ。社員の昇給を予定する。(娯楽業)